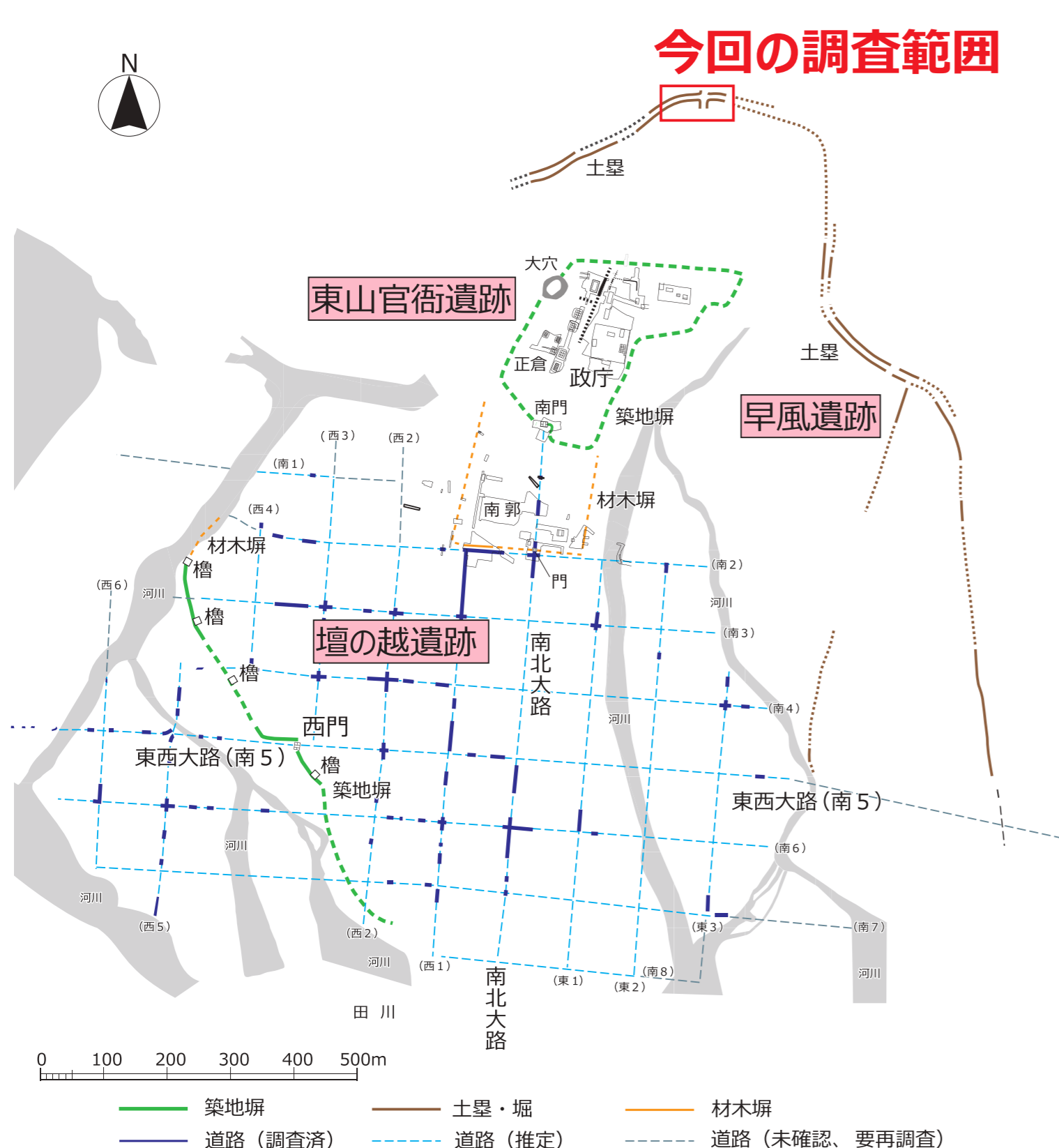




遺跡遠景（北から）

山中に眠っていた防衛施設

④ 早風遺跡（加美町鳥嶋）



早風遺跡は、^{ひがし やま かん が}東山官衙遺跡（8世紀前半に造られた^{むつ ぐく か み ぐう け}陸奥国賀美郡家と推定される^{やく しよ}役所跡）と^{だん こし}壇の越遺跡（同時期の^{ご ばん め}碁盤の目状の街並み）の北から東を取り巻くように広がっています。令和6年からは、多賀城跡調査研究所と加美町教育委員会による発掘調査が行われており、今年の調査地点は遺跡の北端にあります。

調査の結果、東西方向に延びる^{ついでい とるい ほり}築地塀と土壘、堀が発見され、奈良・平安時代の防衛施設であることが分かりました。早風遺跡で築地塀が見つかったのは初めてで、貴重な成果となりました。

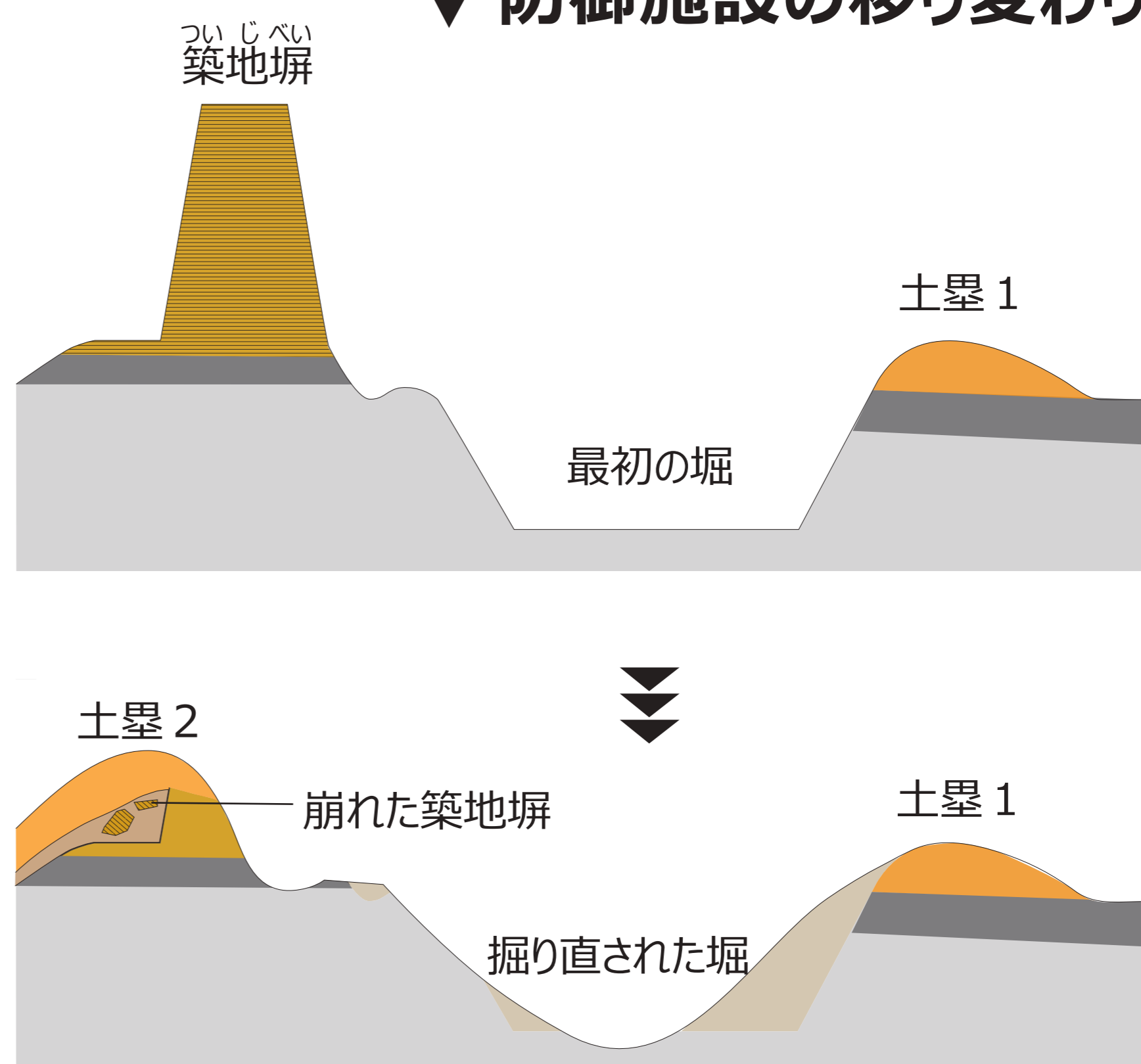


堀と土塁

深い堀は、塀や土塁（土を積み上げた土手状のもの）との高低差で人の侵入を防ぐ目的があります。土塁2と堀の底までは約3.5mの高低差があり、本来はより高かったと考えられます。

堀は一度掘り直されており、新しい堀には10世紀前半ころに降った十和田a火山灰が溜まっていたため、防御施設の年代はそれよりも古いことが分かりました。

防御施設の移り変わり



※多賀城跡調査研究所 2025「早風遺跡-i 地点の調査-」
『令和7年度遺跡調査成果発表会』第4図を一部改変

築地塀

黄色と黒色の土を交互に積み、少しずつ突き固めて固くする版築と呼ばれる工法で造られた塀の跡です。幅90cmほどが残っています。築地塀が崩れた後には土塁2を造り、堀を掘り直すなど防御施設の維持が行われています。

このような大きな堀や築地塀は、なんのために造られたの？



れんげもんちゃん



ちようさいんさん

東山官衙遺跡を守るためと考えられます。壇の越遺跡でも築地塀や材木塀が見つかっており、早風遺跡の土塁や堀とともに、東山官衙遺跡を囲んでいました。これらは8世紀後半に蝦夷との緊張関係が高まったことで造られたと考えられています。

協力：多賀城跡調査研究所